

【西区】令和3年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年6月11日 15時55分 ～ 18時01分
場 所	西区役所3階3B会議室
出席者	<p>【座長】清水富雄議員</p> <p>【議員：2名】清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：17名】寺岡洋志区長、菊地健次副区長、玉崎悟福祉保健センター長、小黒大治福祉保健センター担当部長、天野実土木事務所長、西川浩二消防署長、ほか関係職員</p> <p>【局説明員：2名】市川素久港湾局みなと賑わい振興部長、石井雅樹港湾局みなと賑わい振興部整備推進課長</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度 西区運営方針について 2 令和3年度 西区主要事業の進捗状況について 3 西区に係る予算のすがた 4 西区における開発動向等について 5 新型コロナウイルスワクチンの接種計画等について 6 臨港パーク先端部等の整備について
発言の 要 旨	<p>【令和3年度 西区運営方針について】</p> <p>【令和3年度 西区主要事業の進捗状況について】</p> <p><地域連携交流事業></p> <p>清水議員：西区に神奈川大学のキャンパスができたことで、今後、様々な場面で学生との交流が広がっていくことを期待している。また、神奈川大学はキャンパスを積極的に開放していくようだが、行き来が活発になるよう区として何か考えはあるか。</p> <p>寺岡区長：具体的な取組は今後検討しているところだが、例えば、図書館の開放など、地域住民や来街者が自由に利用できる環境を作っていきたい。また、神奈川大学と協力して情報発信や交流の機会を提供していきたいと考えている。</p> <p><地域活動支援の強化（地域活動事業、区民利用施設を活用したICTツール利用促進事業）></p> <p>清水議員：コロナ禍によって、様々な場面でWeb会議の活用が急速に拡大しており、西区においても区連会をWeb会議で実施するなど事例が徐々に増えている状況にある。私自身、ICTについては、</p>

あまり得意ではないという認識だったが、今では定期的にWeb会議に参加するようになり、簡単に利用できるのだということを実感している。地域活動での利用拡大に向けて、積極的に働きかけを行ってほしい。

畠山地域振興課長：地域活動の停滞が著しい状況なので、地域のつながりを継続するための手段として、地域活動への活用について積極的に提案していきたい。

清水議員：関連する内容として、Web会議を活用して、多文化共生の視点で海外とオンライン交流をしてみるのはいかがでしょうか。また、都市間交流として、彦根市や同程度の人口規模の都市とオンライン交流をするなど、新しい試みにチャレンジしてみてもどうか。

寺岡区長：ICTを活用した新しい試みについては、西区としても積極的に取り組んでいきたいと考えているので、様々な視点で検討していく。

<高齢者あんしん生活サポート事業>

<障害のある人も住みやすいまちづくり事業>

荻原議員：コロナ禍によって地域とコミュニケーションを取ることが難しい状況にあると思うが、その状況においても積極的に高齢者や障害者に情報を提供していく方法について、検討していることなどはあるか。

高橋高齢・障害支援課長：広報よこはまのほか、地域の情報誌なども活用して情報を発信している。また、地域活動でもデジタル化が進んでいるので、今後、SNSを活用した情報発信なども行っていこうと考えている。

荻原議員：実際に集まって防災訓練を行うことが難しい状況だと思うが、西区の職員や地域の方が障害者地域作業所等に出向き、防災訓練にコロナ禍における防災のあり方を取り入れることは可能か。区役所からの積極的な働きかけがあれば、安心を感じてもらえるのではないか。

高橋高齢・障害支援課長：地域で行われる地域防災拠点訓練に作業所等の方にも参加していただく形を最終的には目指している。ただ、防災訓練がない現状を踏まえ、地域の方とも相談しながら対応を考えていきたい。

荻原議員：障害者週間に実施する作品展示について、リアル展示に加えて、インスタグラム等でも見られるようにすることはできないか。

高橋高齢・障害支援課長：これまでに実績はないが、実施に向けて検討する。

<地域資源を活用したまちの回遊性向上事業>

荻原議員：ことりっぶの英語版の印刷は見送るのか。また、ホームページ等で閲覧することは可能か。

鈴木区政推進課長：既存のものの増刷を考えていたが、来街者の減少が見込まれることから、在庫のみで対応が可能と判断し、増刷を見送ることとした。ホームページへの掲載については、権利関係の制約により、作成から1年間のみ掲載ができた。

荻原議員：三菱ドック踏切通路について、区民の通行が増えているとのことだが、今後の環境改善のポイントはどのようなものなのか。

鈴木区政推進課長：落書きが多いと言うのが目下の課題であるため、環境美化の視点で、イベント等により通行が増加するタイミングに合わせて壁面をきれいにする。

荻原議員：落書きの対応については、たちごっこになってしまうので、植栽を植えて落書きをしにくくするといった、落書きをしにくくするような対応は考えているのか。

鈴木区政推進課長：現時点では、そういった対応は予定していないが、意見を踏まえて、今後検討していく。

<商店街及び「まち」のにぎわい創出事業>

荻原議員：「オウチで西区商店会」について、参加対象の店舗の総数と実際に参加している店舗数を教えてほしい。

西区ホームページ等で広報を行っているが、該当ページに容易にアクセスできるような工夫があると事業効果がさらに高まるのではないかと。また、デジタル観光マップでも広報を行っているとのことだが、その名称から来街者のためのツールをイメージしてしまい、区民が自分たちのためのものと捉えにくい。こういった点についても伝え方に工夫をしてほしい。

さらにページの作りについて、掲載情報を全て見るにはかなりスクロールをしないとイケない。ページのトップに各ジャンルのリンクを作るなど構成についても改善してほしい。

畠山地域振興課長：西区の商店会は、24商店会、約1,300店舗あり、そのうち9商店会が参加している。また、実際に参加している店舗数は9商店会244店舗のうち、28店舗が参加している。ホームページをはじめとする各種広報物について、多くの人目に触れるよう配布、公開方法を工夫していきたい。

鈴木区政推進課長：デジタル観光マップは、観光を主眼にしたデザインとなっているが、商店街スタンプラリーやオウチで西区商店会など、区民にも活用してもらえる情報を増やすとともに、伝え方についても工夫していきたい。また、ホームページの構成についても見やすさを向上させるため工夫していきたい。

荻原議員：障害のある人も住みやすいまちづくり事業にも関連するが、障害者地域作業所等の販売製品の紹介などを、オウチで西区商店会の中に何かカテゴリーを作って、行うことはできないか。

高橋高齢・障害支援課長：商店会に加盟している作業所等に、事業への参加

を促してみたい。

畠山地域振興課長：商店街の振興という視点で事業を行っているため、商店会に加入していない店舗等については、現時点では事業の中に入れていないが、意見を踏まえて対応を検討していく。

荻原議員：インスタグラムを活用して広報を行っているが、例えば、商店街で販売されている弁当を紹介し、それをデジタル観光マップに繋げる、障害者地域作業所等の作業風景や販売製品の紹介をする、各種の文化活動を行っているグループの発表の場にするなど、画像や動画による発信力の強さを活かした取組を強化してほしい。

畠山地域振興課長：現在は、地域振興課の事業を中心に活用しているが、作業所等の活動の発信など、関係課と調整して、効果的に実施していきたい。一方、文化活動の発表の場として活用する点については、行政の公式アカウントということもあり、掲載ガイドラインや個人情報、掲載にあたっての公平性など、整理すべき課題が多いと感じている。意見を踏まえて、今後検討していきたい。

<ふるさと西区魅力発信事業>

荻原議員：今年度の「西区虫の音を聞く会」は、新型コロナの感染状況を見ながらできることをしていくということだが、インスタグラム、ツイッター、 유튜브等を活用し、家に居ながらもイベントを楽しめる工夫も検討してほしい。

畠山地域振興課長：昨年度は開催を断念したが、今年度は感染症対策を講じ、規模を縮小した形での開催に向けて検討を進めている。また、単に規模を縮小するのではなく、インスタグラムでの発信など、会場に来なくても楽しめるような仕組みも検討している。

<食中毒・感染症予防対策事業>

荻原議員：害獣問題について、古い街区をリニューアルする場合などにねずみが大量に発生するようなことがある。このような状況について、何か効果的な対策はあるか。

坂井生活衛生課長：基本的な対策として、餌になるものを片付ける、進入路を塞ぐ、毒餌をまくといった対策が考えられる。また、抜本的な対策を講じるために、区の方で被害状況を聴取し、状況に合わせた対策のアドバイスや捕獲用のかごの無料貸出を行っている。さらに、場合によっては、区の職員による現地調査、ねずみの駆除業者団体の紹介なども行っている。

【西区に係る予算のすがた】

【西区における開発動向等について】

【新型コロナウイルスワクチンの接種計画等について】

＜西区に係る予算のすがた＞

荻原議員：「西区に係る予算のすがた」は、区民にどのような形で周知するのか。西区のホームページでも公表したらどうか。

近藤総務課長：他の資料も含め、区づくり推進横浜市議員会議の資料として、後日、議会局のホームページで公表されるが、区民への分かりやすさ、積極的な情報公開の観点から、西区のホームページでの公表について検討する。

＜新型コロナウイルスワクチンの接種計画等について＞

清水議員：横浜ハンマーヘッドでワクチンの大規模接種が始まったので、ワクチン接種が加速していくと思うが、高齢者を対象としたワクチン接種を7月末までに完了させるためには、個別接種の環境を充実させることが不可欠と聞いている。そのためにも西区から医師会等に対して改めて働きかけを行うなど、万全の接種体制を整えてほしい。

寺岡区長：ワクチン接種は、医師会をはじめ、医療関係者の協力があって初めて成立するものなので、しっかりと連携を図っていきたい。

清水議員：個別接種の協力医療機関に問合せが殺到し、通常業務に支障を来しているという話を聞いたが、西区内の協力医療機関では実際どのような状況なのか。

玉崎福祉保健センター長：当初、コールセンターが繋がらなくなったこともあり、協力医療機関に対して、ワクチン全般に関する問合せが来てしまい、混乱する状況が発生してしまった。現在は、コールセンターの回線数を増設するとともに、問合せ先に関する周知を繰り返し行ったことで、かなり解消されている。また、こういった問題が解消されたことで、協力医療機関に加わる医院が増えている。今後も本市ワクチンチームと連携しながら取組を進めていきたい。

清水議員：集団接種に用いられるファイザー製ワクチンと大規模接種に用いられるモデルナ製ワクチンの2種類が使われているが、モデルナ製ワクチンを避ける声を度々耳にする。二つのワクチンの違いについて、改めて教えてほしい。

玉崎福祉保健センター長：二つのワクチンについて、現在分かっている範囲では効果に大差はないと聞いている。明確に異なるのは接種間隔で、ファイザー製は3週間、モデルナ製は4週間の間隔を空けて接種する必要がある。

荻原議員：高齢者を対象としたワクチン接種の計画について、7月末までに市全体の接種が完了する見込みのようだが、西区単体の見込みはどうか。また、個別接種が接種数の半分程度を担うことになるが、現時点で協力が得られている医療機関に加えて、どの程度、協力医療機関を増やす必要があるのか。加えて、高齢者にとっては、自宅からの距離のあるところへ出かけること自体が大きな負担になるので、そういった点からも接種できる場所が少しでも多くなるよう調整してほしい。

寺岡区長：ワクチン接種に関する区ごとの情報が、区役所には来ておらず、西区単体での完了時期など詳細については把握できていない。西区民の接種状況等について、健康福祉局に確認したところ、ワクチン集団接種の実作業に注力しており、区単位での数字の集計や分析等の作業は行っていないため、すぐに提供することは難しいとの回答を得ている。また、個別接種の協力医療機関については、多いほど区民の接種のしやすさに繋がるので、西区医師会を通して、協力医療機関の拡大に努めたい。

荻原議員：大規模接種会場である横浜ハンマーヘッドへのアクセス方法として無料のシャトルバスが出ているとのことだが、乗り場や運行頻度はどうなっているのか。

近藤総務課長：乗り場は、桜木町駅前と馬車道駅前の2か所を用意している。運行頻度は5分間隔で、大規模接種会場と乗り場2か所を往復している。

【臨港パーク先端部等の整備について】

荻原議員：幅広く市民の要望等を聴いて整備を進めてもらいたい。みなとみらい周辺のほか、郊外部を含めた市民、来街者、各種活動団体等から意見募集を行うと思うが、具体的にはいつ頃、どのように意見募集を行うのか。

市川港湾局みなと賑わい振興部長：令和3年度前半に事業紹介や意見募集に関するパンフレット等を作成し、意見を寄せてもらう。Web上での意見募集など、様々な手法を検討している。また、年度後半には、集まった意見をまとめて整備に活かしたいと考えている。

荻原議員：整備内容のうち、砂浜は金沢区の海の公園のようなイメージなのか。また、藻場ができると暖かくなったときに藻の臭いがすると思うがそこについてはどのように考えているのか。

石井港湾局みなと賑わい振興部整備推進課長：砂浜は、幅100メートル、奥行き50メートルで、金沢区の海の公園と広さは異なるがイメージとしては同じ。また、藻の臭いの原因は魚の死骸による腐敗臭等が原因なので、利用者の意見を聴きながら、しっかり管理していきたいと考えている。

荻原議員：砂浜の使い方について、こどもから大人までビーチスポーツを楽しめるようにしてほしい。ビーチスポーツに適した砂質にするなど、そういった点についても考慮してもらいたい。

市川港湾局みなと賑わい振興部長：そういった点についても検討しており、研究しながら進めていく。

清水議員：私の年少の頃は、海に触れられる場所がたくさんあったが、今では金沢区まで行かないと海に触れることができない状況にある。その中で西区に砂浜ができることは、大変いい取組だと評価している。日光浴などの使い方のほか、例えば、こども達の清掃活動やマイクロプラスチックに関する環境学習の場にするといった活用方法も検討してほしい。

市川港湾局みなと賑わい振興部長：様々な活用方法を受け入れられるようしっかり整備していきたい。

清水議員：臨港パーク周辺について、ラグビーワールドカップの際、パブリックビューイングの関係もあり、かなりの混雑状態が発生した。砂浜ができると多くの人の流れが発生すると思うが、どのような対策を検討しているのか。

市川港湾局みなと賑わい振興部長：現状、仮設デッキが唯一のアクセス方法となっているが、今後、パシフィコ横浜との接続デッキの整備など、ルートを複数用意することで、回遊性を高めながら、混雑を抑制できるよう開発していく。

清水議員：先端部を展望ゾーンとして整備するとしているが、具体的にはどのような整備を行うのか。

市川港湾局みなと賑わい振興部長：展望ゾーンについては、象徴的なものを設置し、利用者が写真を撮ったり、景色を楽しんだりできる空間を整備していく。

清水議員：みなとみらい地域において、スケートボードによる施設の破損等が問題となっているが、一方でオリンピック種目になっているにもかかわらず、楽しめる場所が少ないという課題もある。今回の整備の中で、スケートボードを楽しめる場所を作ることは考えられるのか。

市川港湾局みなと賑わい振興部長：こういった形で共存できるのか、検討していきたい。

【その他】

<空き地対策について>

清水議員：地権者が適切に管理をしない土地が増えており、例年のことだが、梅雨から夏にかけて草木が繁茂し、隣地や道路に張り出して、様々な支障が発生させている。こういったものについて、地権者の了

	<p>解を得なくても剪定できるようにならないのか。</p> <p>森土木事務所副所長：民地の問題なので、原則、地権者の責任で対処してもらい必要がある。ただ、交通上の支障など、至急対応が必要な場合などもあるため、状況に応じて、区役所とも連携を図りながら対応していきたい。</p>
備 考	